鹿骨·篠崎エリア 歳時記

(イベントスケジュール)

イベント名の後に記載の数字は、 えどがわ百景の番号です。 裏面のマップで位置を見て下さい。

5月 花の祭典 101

鹿骨区民館まつり 104

6目 浅間神社 のぼり祭り* 96

篠崎本郷の獅子もみ 105

江戸川区花火大会 103

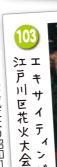
鹿息神社のお祭り 😙

10月 区民まつり 👥

※隔年開催









105 江戸から伝わる 篠崎本郷の獅子もみ

一合普物語一 鹿骨の農風景

100 江戸川農の原風景 鹿骨

長の歴史を持つ花卉園芸栽培

花卉園芸栽培は、江戸時代に東小松川村の大杉方面で菊栽培を始めたことに由来すると伝えられています。 その後、付近の村々に広がってゆき、明治から大正にかけては瑞江・鹿本方面でも盛んになりました。

鹿骨では、新潟方面から取り寄せた苗で芍薬や牡丹の栽培を始め、大正 12 年 (1923) の震災を契機に野菜 栽培から花卉に転換する農家が増えました。

戦争中は一時的に野菜作りが中心になりまし たが、戦後には回復し、朝顔をはじめとして鉢 物の卸売りも増えてきました。東京の花暦で「春 は鹿骨の花からはじまる」と言われたほどです。

現在では、朝顔、シノブ、サクラソウ、各種花苗、 ポインセチア、春の七草の寄せ植えなどの様々 な草花が生産されており、夏の風物詩として有 名な入谷の朝顔市の約7割が江戸川区産です。





一歷史探訪一 何原被場道石造道標

道端にある石の碑篠崎街道の道じるへ

江戸時代、行徳で作られた塩は陸路や水運で江戸や岩槻に送られました。篠崎街道 や旧江戸川の上流部あたりは、塩の運搬だけでなく、行徳を中継地とした成田山参詣 のため、さまざまな人や物の往来がみられたことでしょう。

その名残の一つが道標で、「東部区民館入口」のバス停付近に成田山不動明王と彫られた 大きな石造道標が見えます。「右行徳、左市川」と彫られており、文政9年(1826)に建 てられたもので、成田山新勝寺を目指す道標です。

やがて水運の利便性から、旧江戸川沿いには本州製紙(現王子マテリア)などの工 場が置かれ、人口が集中して地域が発展しました。その後、近代の過度の工業化によ る水質汚染や時代の変化で工場の縮小や移転が進み、地域の住宅化が進みました。

現在は河川水質などの環境も復元し、防災船着き場や集合住宅、スポーツ施設など が整備され、災害時の避難場所も多く指定されています。



成田山不動明王石造道標 (瑞江南コース付近)

えどがわ百景とは

江戸川区では、まちの魅力 を更に高めるため「好きな 景観」や「気になる景観」を 募集し、平成22年に「えどが わ百景を選定しました。その 後見直しを行い、平成30年 4月より133の景観ポイントを



「えどがわ百景」として位置付けています。

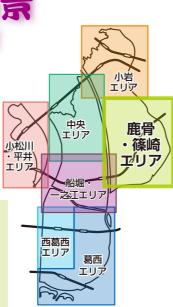
えどがわ百景 探訪マップ

えどがわ百景をより楽しん でいただくため、エリア毎に 「えどがわ百景探訪マップ」を 作成しています。

マップは各区民館やコミュ・平井エリア ニティ会館などで配布してます。

徒歩の駅とは

様々な地域資源ネットワーク で結び、途中に情報交流や お休み処として徒歩の駅を 設定しています。手洗所や ベンチがあります。





江戸川区は、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現 に向けて、SDGsに積極的に取り組んでいます。17あるゴー ルの中で、えどがわ百景事業はNo.11「住み続けられるまち

をすることは、No.3「すべての人に 健康と福祉を につながります。

づくりを、、探訪マップでまちあるき 発 行 日:平成30年4月 改 訂 日:令和7年5月 行: えどがわ百景幹事会 務 局:江戸川区都市開発部都市計画課 電話 03-5662-6369 : 景観まちづくりワークショップ 参考文献:「江戸川区の史跡と名所」平成20年1月 江戸川区教育委員会 「理想のまちづくり半世紀の航跡江戸川区政50年史」 平成13年3月江戸川区



